

浜坂病院 医師・看護師・検査技師さん他、募集中！

浜坂病院は6月末で総合診療科医師2名が退職され、現在、高木院長を始め3名の常勤医と鳥取市立病院の2名の応援医師により、総合診療科の外来・入院患者さんの診療にあたられることになりました。整形外科外来は森下医師（鳥取市立病院）の火曜日（第2・第4火曜日は午後のみ）の予約診と黒田医師による金曜日の午前みの診療体制となっています。

耳鼻咽喉科は火曜日から木曜日と金曜日（午前のみ）の兵庫医大の医師による診療体制に変更ありません。泌尿器科、神経内科、睡眠外来、発達相談外来も変更ありませんが、詳細は浜坂病院にお尋ねください。引き続き医療体制整備に努めておられます。



河越の一般質問その他

6月議会では、この度の感染症対策を始め、住民の安全確保の姿勢を中心に質問しました。

感染症対策は国・県からの指導に従うのみで、無症状感染者への対応に不安を感じました。

公共施設の安全性確保については、耐震性が現在の基準を満たしているかの確認ができていない施設があること、耐震性の不足が確認されていても対応する予定さえ示さない施設があることへの行政責任の認識不足を感じました。客観的情報を公表することは可能です。行政として、利用者への注意喚起を促すべきであると進言しました。

どうなる？巨大風力発電プロジェクト



風力発電事業については、6月議会の阪本議員の一般質問への答弁から、感染症の拡大により事業推進は休止中であり、高山に設置した風力計測器のデータは感染症が終息後、分析するとの情報があることが分かりました。最後まで予断は許されません。

道路の擁壁と宅地の擁壁では基準が異なっていることを例に挙げ、公共施設整備は機能・効果や費用を総合的かつ客観的に判断すべきだと進言しました。

その客観性確保には、より多くの専門的知見が必要であり、行政運営の客観性とチェック機能の強化を求めましたが、深い理解は得られませんでした。



実写画像



ネット画像

6月の休日、畑仕事をしていると、近くの花に黒色のアゲハ蝶が飛んできました。気になって、スマートフォンで追いかけてみました。それは50年ぶりの出会いになるジャコウアゲハでした。大写しはできませんでしたが、少し幸せな一日になりました。

むだばなし

高校2年生だった2月、土曜日の授業後、大学受験のため高校生最後のスキーにしようと思い、一人で全但バスに乗って、鉢伏高原のある関宮に向いました。湯村のバス停から小学1年生ぐらいの女の子も乗車しました。女の子は一人っきりだったので、バスの行き先から少し疑問を持ちました。当時、春來トンネルの工事中で、バスは全部春來峠越えでした。温泉小学校に通う工事関係者のお子さんだったのかも知れません。

その時のバスは、観光バス型で降車を知らせる押しボタンが高い位置にありました。春來に近づいた頃、その女の子が座席でジャンプしたり、背もたれに登ったりしていることに気づきました。

最初は、ただ遊んでいるんだと思っていました。ところが、バス停を通過しそうになった時、女の子は血相を変えて通路を前に進み、バスの運転手さんに降りることを告げて降りていきました。

そこで、先ほどのジャンプが降車ボタンを押すための必死の行為だったことが分かりました。私は、女の子の行動を最初は遊びと思い、その後、疑問を感じていたのではないかと自問しました。もしかしたら、その疑問を自らが封じたのかも知れないと罪悪感をいただきました。思えば、女の子に声を掛けて、手助けすれば良かったのか、女の子の貴重な経験を良しとするか、現在も絶対的な結論は得られていません。46年前の、今もって忘れられない苦い思い出です。



河越忠志の町政報告は年に4回の発行予定ですが、配布方法は定まっていないため、配布をご希望いただける方はご連絡ください。また、ご意見等もお待ちしております。

町政報告 2020年夏 第11号

とち
栃の実 通信
(ただっちゃん つうしん)



新温泉町議会議員

かわごえ

河越ただし

住民の幸せ追求が町政のつとめ

発行：河越 忠志

〒669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL0796-92-2428 FAX0796-92-2206

E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp http://take2428.com

走ろう会の活動中出会った「上山高原から扇ノ山に至る」眺め

安心・安全の行政責任は

暑中お見舞い申し上げます。

7月に入り、最初に九州地方、そして岐阜県など全国各地に豪雨による災害が発生しました。近年は毎年のように「今までに経験したことのない」という表現が使われ、そのとおりの災害が発生しています。

新温泉町での近年の自然災害は、相対的に小規模な程度にとどまっていますが、今回の新型コロナウイルスによる感染症については、観光業を始めとする多くに事業に大打撃を与え、その回復が見通せない状況です。その対策として実施される経済活動テコ入れ策には多くの意見があります。

それは感染拡大中での開始であり、感染症への医療体制が不足している地方にとっては、幸運を祈る以外にないようにさえ思えることです。

それは無症状の感染者からの感染を完全に防ぐことができないからです。可能なことは、濃厚接触を避けることと消毒ですが、家庭内では不可能に近く、医療・福祉等の現場での完全防御も困難です。

せめて短時間で実施可能な抗体検査、抗原検査等ができる体制づくりを国の責任で行い、医療従事者等への感染予防策を徹底すべきです。

私たち一人ひとは、感染の危険性を可能な限り低くすることと、重症化の可能性の高い人への配慮が求められています。そんな中で地元での消費は、私たちができるせめてもの地元支援であり、町や国の制度による消費拡大策を活用し、最大の効果が上がるよう、多くの皆様のご協力をお願いいたします。

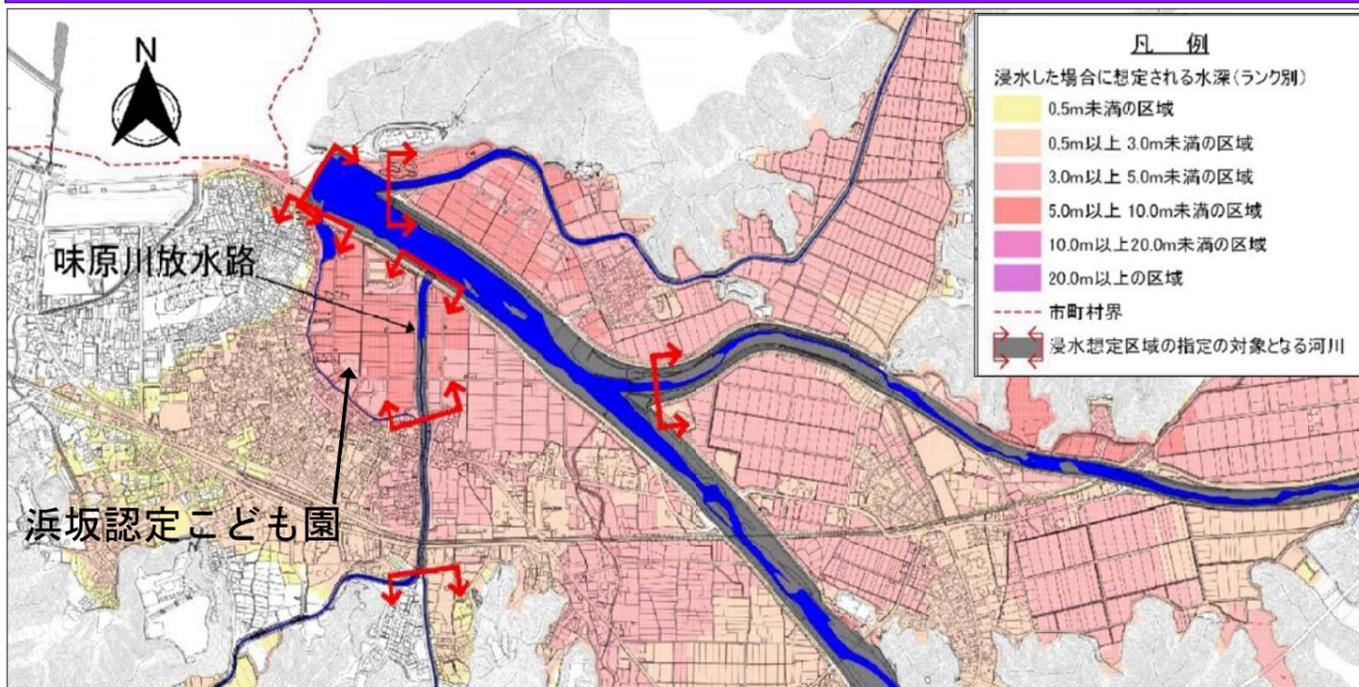
私たちの安心・安全を、すべて行政任せにすることは危険だと思います。今回の感染症対策においては、国と都道府県の責任についての法律上の不具合も指摘されています。

そのため、自らの安心・安全を確保するためには、自己判断、自助努力と声を上げることが大切だと思います。一方、行政は常に不完全さを認識し、安心・安全の客観的向上に努めると共に声を上げることさえできない人への配慮を怠ってはいけません。この禍（わざわい）を機に地域が一丸となって大きな苦境を乗り越えなければなりません。



(追加発行予定のステッカー)

(兵庫県) 1000年に一度の浸水想定公表



今年5月29日、兵庫県から岸田川水系岸田川、田井川、味原川、味原川放水路、三谷川、久斗川、久谷川、和田川、田君川、熊谷川、春來川、稲負谷川、照來川、中辻川、三倉谷川の1000年に1度の確率となる最大降雨(518mm/24h)による浸水想定が公表されました。今月の九州地方の大雨では600mm/48hを超えた地域もあり、けた違いではない値にも思えます。また、想定浸水深では古市付近が最も大きい値が示されており、町内幹線道である県道浜坂井土線の脆弱さが浮き彫りになりました。

この浸水想定は、町内全域の降雨による県管理河川のみの想定であるため、町管理の河川・水路単独の浸水想定は示されていません。この情報をどう活かすかは、町の判断に任されていますが、防災のあり方は慎重な議論が必要だと思っています。

行政は住民の期待を超える安全性確保と情報周知が義務であると思います。個別地域の想定は役場等で、ご確認ください。

浜坂認定こども園：整備方針は示されず

6月議会と7月の常任委員会でも、浜坂地域の認定こども園整備に関する方針は全く示されず、新たな洪水浸水想定を勘案して検討するとの答弁にとどまりました。今回は感染症対策に追われ、時間が足りなかったのか。農業振興地域内に用地を求めるとなれば単純に半年遅れとなり、いずれにしても判断と推進の遅さに疑問を持つと共に消極的な時間経過を残念に思いました。

議会の対応としては、住民を巻き込んだ議論を経なければ、町民や少なくとも各議員の支援者に対して、整備検討委員会の答申に「否」を突きつけたことへの説明責任は果たせないと思います。



地域要望の真意は？

多くの住民と観光客にも親しまれ、愛される味原川周辺は、更なる修景と保存、新たなストーリーづくりにより、浜坂地区全体のまちづくりに大きな役割を果たす可能性があると思います。住民合意に基づき取組みが望まれます。



上空横断が可能な味原小径

新温泉町(地方)における公共調達のあるり方

公共調達とは国・県・市町村などが物品を購入したり、工事発注や業務委託することなどのことです。

公共調達の基本は、公正公平で、且つ競争原理によることです。競争とは入札などにより、取引の相手を選定することです。

先の3月議会中に町職員が逮捕された容疑は、工事の入札における最低制限価格を業者に漏らしたと言うものです。

最低制限価格とは入札金額が、その価格未満であった場合に入札者が失格になる基準額のことです。入札参加者が低価格でも受注したいとき、その金額に近い金額で入札すれば、落札できる可能性は高くなります。

そのため、入札参加者には予定価格と同様に知りたい情報となります。今回の容疑では、それが真実であったとしても、本町が信頼を失墜したこと以外、実質的被害はなかったと思います。

そのことは罪の重さには関係ありませんが、公共調達の方法によっては、罪は問われなくても、本町にとって損害を与えることになる場合もあります。

それは、無駄使い、公正公平に反すること、或いは地域振興に逆行することなどがあります。そこで、公共調達のあり方を考えていく必要があります。

公共調達を適正に行い、地域振興に繋げ！

わが町のような財政力が乏しい自治体こそ、公共調達は地域振興に、有効に繋げる配慮が必要だと思えます。公共調達では品質の確保は絶対条件ですが、発注の方法で町の経済に大きな差が生じると思えます。雇用創出や人口維持にも影響すると思えます。

この度の感染症の影響に対し、様々な施策が取られ、お金の動きを実感されたと思えます。同様に公共調達では、常に地元経済に好影響が生じるよう、工夫する必要があります。

例えば、国ではコンクリートの橋だけでなく、鉄骨の橋も適宜採用するというような業界への配慮をしています。地方自治体であれば、如何に地域の企業へ公正公平に発注するかが課題です。また、下請け事業者へ適切に波及することにさへ配慮する必要があります。物品購入も同様で、同じものだからと言って、町外事業者から安く調達すればいい訳ではありません。町全体を維持していく上で、誰もが納得できる範囲での配慮が大切です。

先の刑事事件への町の対応では、最低制限価格を固定化せず、入札の際に一定の範囲内で偶然的に決定する方式にしました。これは、誰も知り得ないことでは公平でも、地域振興へ繋ぐ工夫は全くありません。今年の4月、町長宛に公共調達のあり方についての意見書を提出しましたが、反応はなく残念です。

ふるさと納税

椿山公園より観音山を望む

活動支援枠創設を！

6月議会の一般質問では、率直に「何故、様々な町内の活動への活動支援枠を設けられないのか。」と質問しました。しかし、明確な回答はなく、「あなたが、自分でクラウドファンディングをすれば良い。」との最終的な答弁に落胆すると共に、残念に思いました。財政力の乏しいわが町が、まちの振興に繋がる民間活動を他の財源で、どれだけ直接支援できるか疑問です。

令和元年度のふるさと納税による寄付額が約1億4千万円(香美町は約3億円)だったとは言え、返礼品他の諸経費を除くと、わが町の自主財源になるのは4割程度です。

地域の高校を守る活動、麒麟獅子舞や北前船寄港地など特定地域活動は、わが町が生き残れるかどうかの大きな鍵です。しかし、町としての根本的課題もあり、有効な支援策さえ提示できていないのが現実です。この町の多くの方々のそれぞれの力が十分に発揮される制度づくりが必要です。中途半端な支援では活動は持続できません。

ふるさと納税とは

総額で住民税の約20%相当額を限度に、1又は複数の自治体に寄付すると、2,000円を除く金額が、翌年の住民税と所得税に振り分けて、減額される制度です。結局、2,000円だけが寄付者の負担になります。(詳細は税務課へ)